

● All Made in Wakayama への挑戦

開発当初、乾溜竹の製造は山形県の事業者にて委託しており、和歌山の竹を山形へ送り、加工された乾溜竹を再び和歌山へ戻してもらう形で製作を続けていました。しかし、その事業者が廃業することとなり、一時は製品づくりの継続さえ危ぶまれる状況に陥ります。それでも諦めることなく模索を続ける中で、和歌山の NPO 法人が乾溜竹の製造を事業化し、市内で生産を担ってくれることになりました。これにより、素材から製造までを和歌山で完結する、まさに「メイド・イン・和歌山」のスピーカーが実現しようとしています。さらに 2025 年には、竹素材では実現が難しかった大口径ユニットにも対応できる全方位スピーカーの音響構造を開発し、特許を取得。梅田さんの挑戦は今なお続いています。自然素材と音の組み合わせが生み出す可能性は無限大です。演奏者の想いまでも伝わってくるような音に出会えたとき、人は深く心を動かされます。そんな感動の体験を一人でも多くの人へ届けたい。その願いを胸に、梅田さんは今日も新たな音の可能性を追い続けています。



音像を実際に体感してみませんか？

全方位スピーカー Kaguya で聞く レコード音楽の世界

日時：11 月 29 日(日) 15 時から
(10 月 25 日(日)8 時から WEB 予約開始)
場所：和歌山市民図書館 2 階 海外文学

梅田さんが追い求める「良い音」とは何か。文面や映像では伝えきれない音像の魅力を体感できる試聴イベントを開催します。音楽をより深く味わう豊かな時間を、ぜひ図書館でお楽しみください。

編集メンバーおすすめの一冊



音のひみつがすべてわかる! すごすぎる音楽の図鑑

監修：反田 恭平 著：ジャパン・ナショナル・オーケストラ／出版社：KADOKAWA

世界的なピアニスト・指揮者の反田恭平さんが監修を手がけた『すごすぎる図鑑』シリーズの音楽編です。音のしくみや楽器の特徴、名曲や作曲家の知られざるエピソードなど、音楽にまつわる幅広い知識をイラストとともにわかりやすく紹介しています。児童書でありながら大人も楽しめる内容で、耳に音が届く仕組みからオーケストラの舞台裏まで、教科書では教わらない音楽の魅力が満載です。巻末には演奏映像も収録されており、読書の前後で聴き比べることで新たな発見があるはず。読み終える頃には、生のオーケストラの演奏を聴きたくなる一冊です。

編集後記

県内で作られた優れた品々を選び抜く「和歌山一番星アワード」という企画を通じて、全方位スピーカー「Kaguya」を知りました。実際にその音を聴くまでは、「音像」という言葉の意味を深く理解できていませんでした。しかし、ほかのスピーカーと聴き比べた瞬間、その違いは誰にでもわかるほど明確で、大きな感動を覚えました。「百聞は一見に如かず」と言いますが、Kaguya の場合はまさに「百聞は一聴に如かず」。今回、Kaguya の魅力である音像を実際に体感できるイベントを開催します。ぜひ本号の「和 the」をお読みいただき、その豊かな音の世界をご自身の耳でお確かめください。



「和 the」は和歌山市民図書館が発行する、まちの技・巧・匠を発信するフリーペーパーです。図書館がまちと接点をもち、まちが誇る文化や技術を発信しています。まだ知らない、ここ和歌山の魅力にぜひ触れてみてください。

和歌山市民図書館

WAKAYAMA CIVIC LIBRARY

〒640-8202 和歌山県和歌山市屏風丁 17 番地
開館時間 / 9:00～21:00 TEL / 073-432-0010

和 the バックナンバーは、図書館 HP より
ご覧いただけます



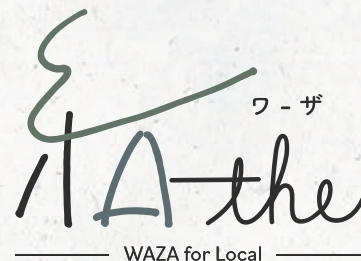
ホームページ



Instagram



facebook



24

2026.10.1 発行
TAKE FREE



取材協力：ウメダ電器 梅田寛さん

和歌山市民図書館
WAKAYAMA CIVIC LIBRARY

自作ラジオから始まった 「良い音」づくり

幼少期からものをつくるのが好きで、小学5年生の時に初めて真空管ラジオを組み立てました。自らの手で組み上げたラジオから音が流れた瞬間の感動が音楽に魅了されるきっかけとなり、壊れた家電からユニットを取り出して自家製のスピーカーをつくるなど音作りにのめり込んでいきました。学生時代にはレコード収集や音響解析の研究に打ち込むなど、常に「良い音」の探求に情熱を注いできました。音響メーカーのエンジニアとして更なる技術向上に励み、数値的な性能を追求する中で、自身が創り出したい真の「良い音」を見出します。それは、単に音質が良いというだけでなく、聴く人の目の前にまるで演奏者が実在するかのように「音像」をはっきりと感じられる音でした。

コンサートホールで聴くような音の立体感を再現するため、あらゆる方向へ均一に音を渡す「全方位スピーカー」へ行き着いた梅田さん。陶器など様々な素材で試作を重ねる中、転機は偶然訪れます。放置竹林の整備を手伝った際、梅田さんの脳裏に「この竹にスピーカーを入れてみたら面白いのではないか」というひらめきが訪れました。この運命的なひらめきこそが、和歌山の自然と技が融合した唯一無二の竹スピーカー「Kaguya」誕生の瞬間でした。製品化に向けて試行錯誤を重ねる中で立ちはだかったのが、竹が割れてしまうという大きな壁でした。幾度もの試作を経てその苦悩を打ち破った鍵が、竹を「燻す」という伝統的な手法です。燻し加工を施した「乾溜竹（かんりゅうちく）」を用いることで耐久性を大幅に向上させ、ついに製品化への道を切り拓きました。

偶然の竹との出会い

ウメダ電器 梅田寛さん

金沢市生まれ、和歌山市育ち。オーディオメーカーの開発部勤務を経て、父が経営していた地域電気店を継承。2011年に音響構造の特許を取得し、全方位スピーカー「Kaguya」の開発・製造・販売を開始。2025年には新たな音響構造の特許を取得し、音への情熱を追求し続けている。

音像をつくりあげるワザ

和歌山が誇るワザ(技・巧・匠)を発信する、和歌山市民図書館のフリーペーパー『和 the』。Vol.24のテーマは「竹が奏でる、感じる音のかたち」です。今回は、和歌山の里山に育つ竹と特許取得の音響技術を掛け合わせた全方位スピーカー「Kaguya」を制作・販売する、ウメダ電器の梅田寛さんに取材しました。形状も質感もひとつとして同じものがない天然素材の竹を手作業で加工し、オーダーメイドで一对のスピーカーへと仕上げる職人技。そして、妥協なく世界にひとつだけの音色を追求する「ワザ」に迫ります。

天然素材である竹は工業製品と異なり、一つひとつ形や太さが異なるため単一のマニュアルが通用しません。だからこそ、それぞれの個体に合わせて図面を引き、ミリ単位の精密な設計を行います。幼い頃から磨き抜いてきたエンジニアとしての正確な計算力と、丹念なアナログの手仕事の融合。この妥協なき精密設計こそが、一つとして同じものがない Kaguya に唯一無二の命を吹き込むのです。

個性を理解し、精密に設計する

梅田さんが目指すのは演奏者がまるで目の前にいるかのような圧倒的な音の立体感です。その理想を追い求めるため自らコンサートへ足を運び、本物の音に触れては新たな着想を得ています。本物の「良い音」に触れるたびに Kaguya をこうしてみたら良いのではないかと、いうアイデアが次々と湧き上がります。そうして生まれた発想や技術のすべてを、一对のスピーカーに惜しみなく注ぎ込みます。妥協のない最高の一品を届けるため、商品を作り置きすることはありません。その時点で考え得る最高の技術と想いを最大限に詰め込んだ一对を仕上げること。それこそが、梅田さんが考える「良い音」を届けるためのこだわりです。

作り置きせず受注生産にこだわる

梅田さんは「良い音」が鳴るスピーカーを作るだけでなく、Kaguya を通じて音楽を深く味わう時間を届けようとしています。レコードからCD、そしてサブスクリプションへと、音楽を聴く媒体は時代とともに大きく変化してきました。誰もがいつでもどこでも手軽に音楽を楽しむようになった一方で、クラシックやジャズをゆっくり時間をかけて楽しむことが少なくなっているかもしれません。梅田さんは、「良い音」を追求することで、音楽をより深く楽しめる環境が生まれ、その先に感動する人が増えていくと考えています。そして、その積み重ねが音楽文化そのものを豊かにしていくことを願っています。その想いの結晶である Kaguya を通じて、一人でも多くの人に音楽の魅力を伝えたい。そんな願いを胸に、梅田さんは今日も設計図と向き合いながら、「良い音」への探求を続けています。

豊かな音楽体験を提供する

